

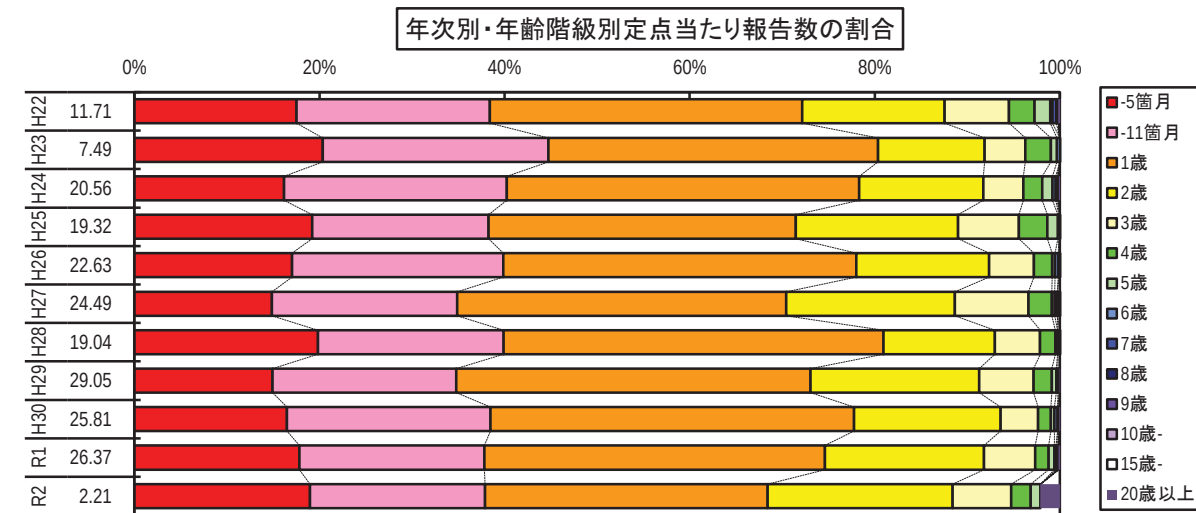
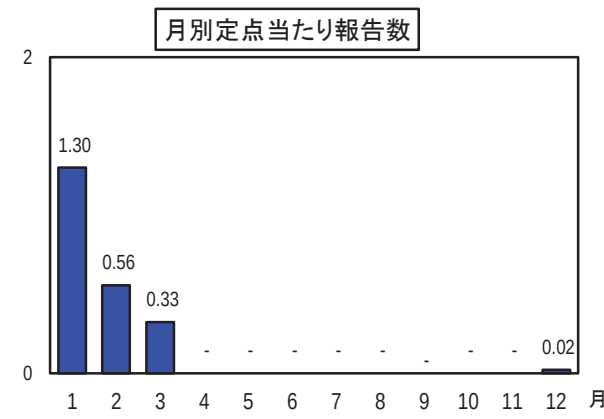
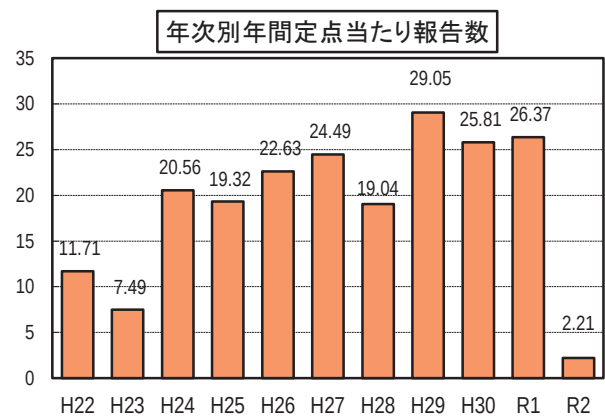
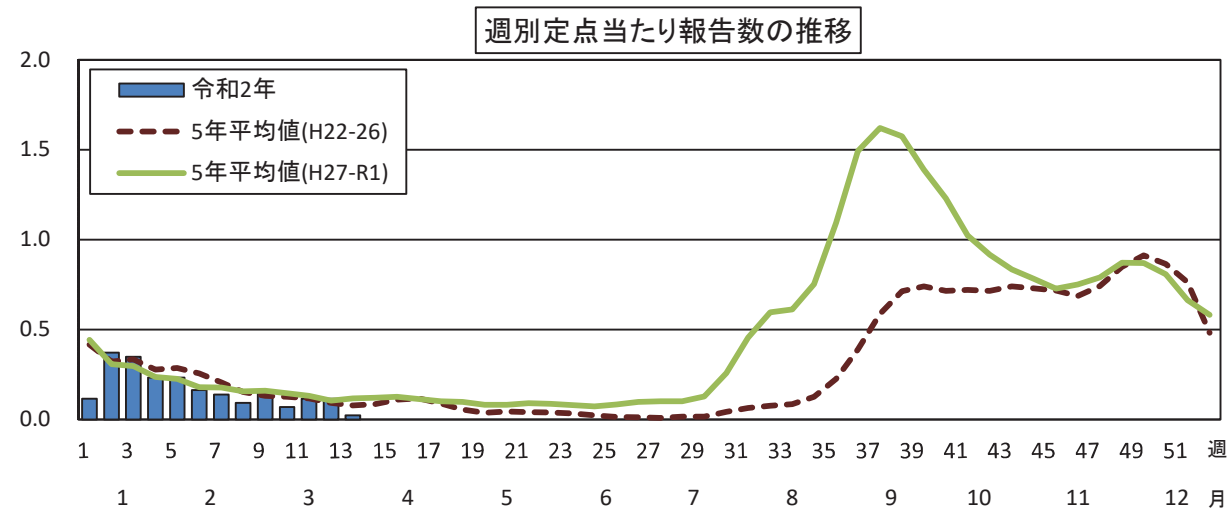
イ 小児科定点

(ア) RSウイルス感染症

令和2年は年間報告数95例、年間定点当たり報告数2.21であり、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比は0.09、前年比は0.08であった。過去10年間の年間定点当たり報告数では、最も少ない。

月別定点当たり報告数では1月(1.30)、次いで2月(0.56)の順で多く、4月から11月は報告がなかった。

年齢階級別で比較すると、1歳(30.5%)が最も多く、次いで2歳(20.0%)、0箇所月～5箇所月及び6箇所月～11箇所月(共に18.9%)、の順となり、2歳以下が全体の88.3%を占めた。



令和2年は年間報告数300例、年間定点当たり報告数6.98、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.42、前年比0.37であった。過去10年間の年間定点当たり報告数では、平成22年、24年に次いで少ない。

年齢階級別では、1歳(42.0%)が最も多く、次いで2歳(15.0%)、6箇月～11箇月(10.7%)、3歳(10.3%)の順となり、3歳以下が全体の78.0%を占めた。

令和2年
5年平均値(H22-26)
5年平均値(H27-R1)

1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 週

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 月

Scenario	Number of Nodes
H22	4.53
H23	8.83
H24	6.23
H25	13.93
H26	22.78
H27	14.85
H28	19.55
H29	17.68
H30	11.47
R1	18.65
R2	6.98

Month	Number of people (in thousands)
1	1.28
2	0.58
3	0.74
4	0.16
5	0.07
6	0.16
7	0.37
8	0.72
9	0.60
10	0.56
11	0.74
12	0.98

Patient	Median Age (years)	<5 months	5-11 months	1 year	2 years	3 years	4 years	5 years	6 years	7 years	8 years	9 years	10 years	15 years	20 years and above
H22	4.53	0%	0%	15%	25%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
H23	8.83	0%	0%	10%	20%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
H24	6.23	0%	0%	15%	25%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
H25	13.93	0%	0%	10%	20%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
H26	22.78	0%	0%	10%	20%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
H27	14.85	0%	0%	10%	20%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
H28	19.55	0%	0%	10%	20%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
H29	17.68	0%	0%	10%	20%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
H30	11.47	0%	0%	10%	20%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
R1	18.65	0%	0%	10%	20%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
R2	6.98	0%	0%	15%	25%	15%	10%	10%	10%	5%	5%	5%	5%	5%	5%

(ウ) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

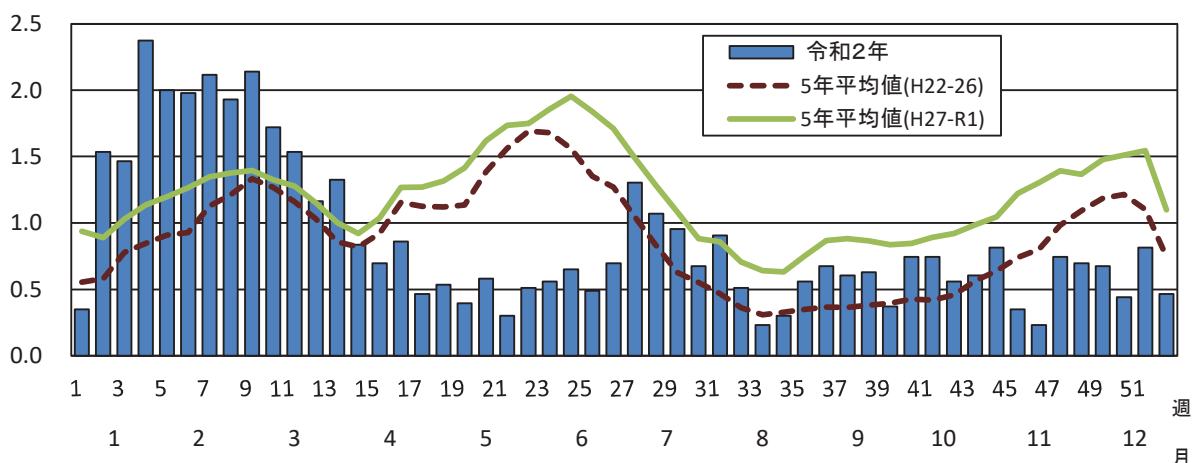
令和2年は年間報告数1,987例、年間定点当たり報告数46.21、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.74、前年比0.71であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は平成22年、23年に次いで少ない。

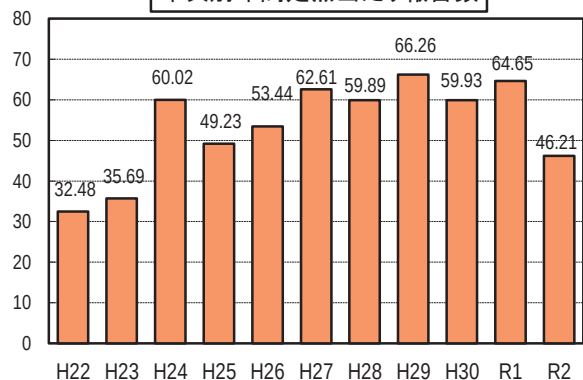
月別定点当たり報告数では、2月(8.16)、1月(7.72)、3月(6.58)の順に多かった。

年齢階級別では、4歳(12.8%)が最も多く、次いで5歳(11.8%)、6歳(10.7%)、3歳(10.4%)の順となり、3歳～6歳が45.7%を占めた。

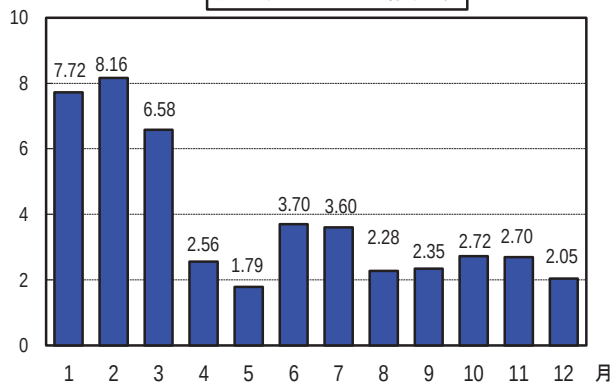
週別定点当たり報告数の推移



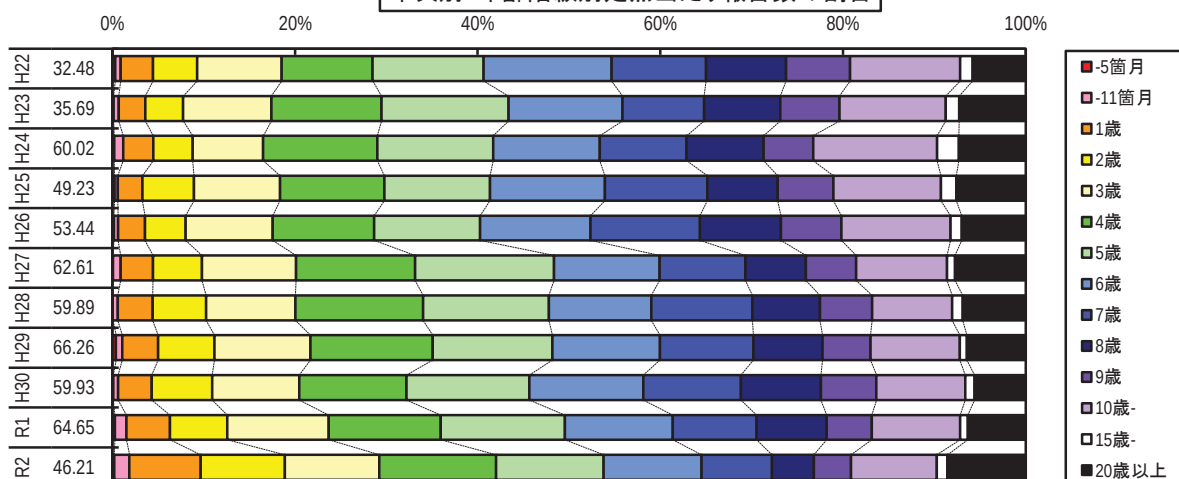
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



(エ) 感染性胃腸炎

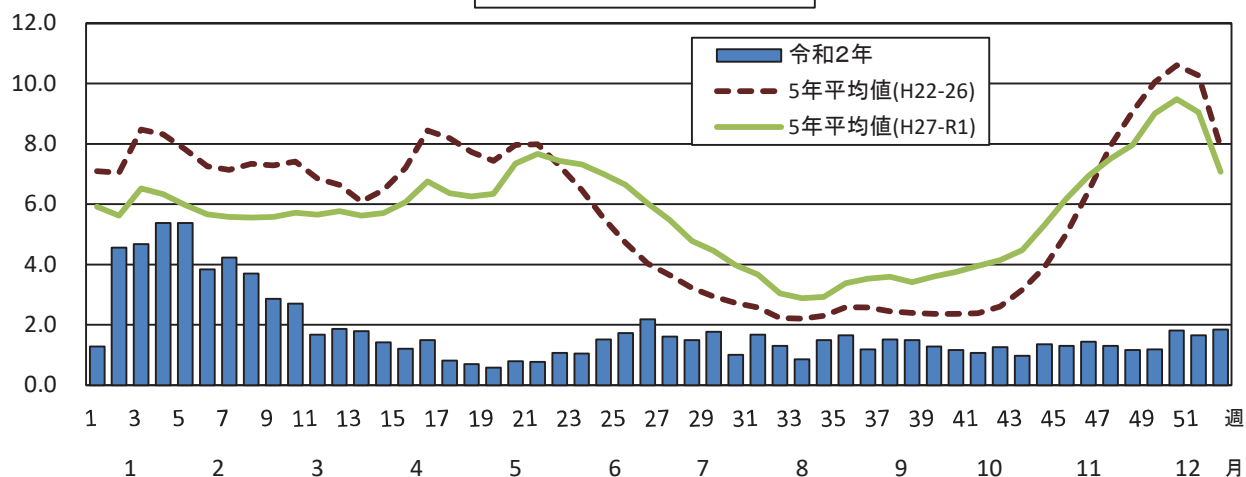
令和2年は年間報告数4,116例、年間定点当たり報告数95.72、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.32、前年比0.38であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数では、最も少ない。

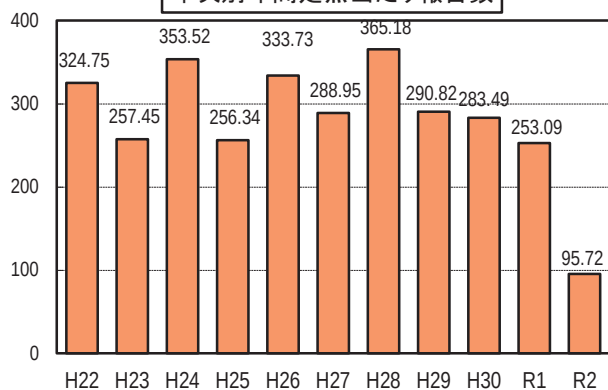
月別定点当たり報告数では1月(21.26)、2月(14.63)、3月(9.44)の順に多かった。

年齢階級別では、1歳(15.0%)が最も多く、次いで10歳～14歳(12.5%)、20歳以上(10.5%)、の順となるが、1～4歳で全体の40.3%を占めた。

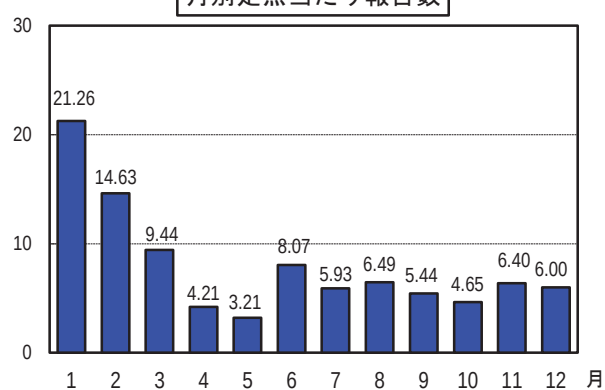
週別定点当たり報告数の推移



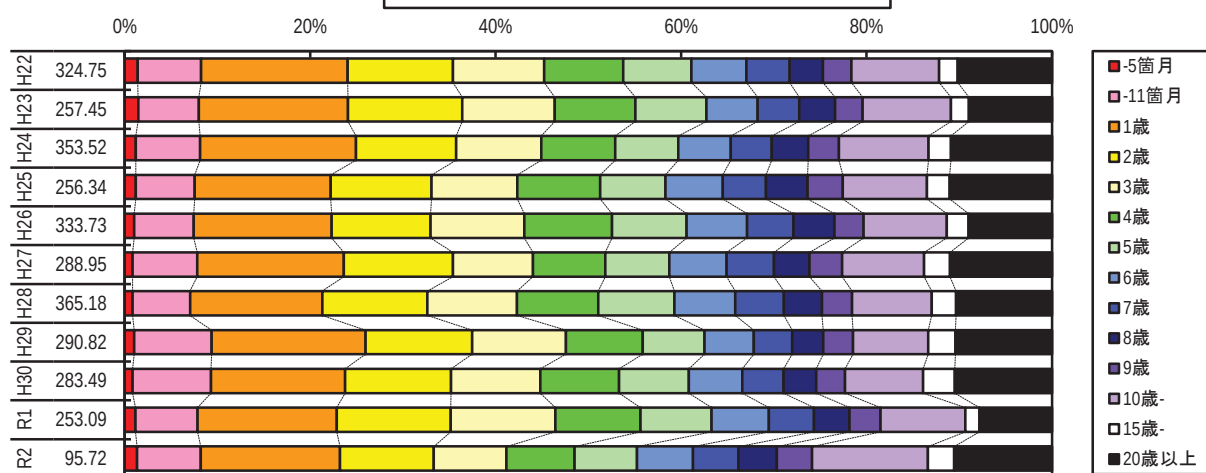
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



令和2年は年間報告数341例、年間定点当たり報告数7.93、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.53、前年比0.46であった。

月別定点当たり報告数では、1月(1.58)、2月及び11月(共に1.21)、3月(0.79)の順に多かった。

年齢階級別では、5歳(16.4%)、6歳(14.1%)、3歳(12.0%)、4歳(10.6%)の順に多く、3～6歳が全体の53.1%を占めている。なお、3歳以下の割合は年々減少傾向にある。

Figure 1 is a combined bar and line chart comparing precipitation trends. The y-axis represents precipitation in millimeters (mm), ranging from 0.0 to 1.5. The x-axis represents days, numbered 1 to 51, with corresponding month and year labels (1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12) below. The chart includes three data series: '令和2年' (Reiwa 2nd year) shown as blue bars, '5年平均値(H22-26)' (5-year average H22-26) shown as a dashed brown line, and '5年平均値(H27-R1)' (5-year average H27-R1) shown as a solid green line. The Reiwa 2nd year shows higher precipitation in the early and late periods compared to the averages, while the H27-R1 average shows higher precipitation in the middle period.

Node Type	Number of Nodes
H22	58.45
H23	44.67
H24	47.67
H25	45.48
H26	31.95
H27	17.61
H28	15.61
H29	12.45
H30	12.14
R1	17.30
R2	7.93

Month	Number of People
1	1.58
2	1.21
3	0.79
4	0.28
5	0.14
6	0.28
7	0.40
8	0.28
9	0.51
10	0.74
11	1.21
12	0.51

This horizontal stacked bar chart displays the percentage distribution of ages for each year from H22 to R2. The x-axis represents percentages from 0% to 100%. The legend identifies age groups: -5箇月 (red), -11箇月 (pink), 1歳 (orange), 2歳 (yellow), 3歳 (light yellow), 4歳 (green), 5歳 (light green), 6歳 (blue), 7歳 (dark blue), 8歳 (navy), 9歳 (purple), 10歳- (light purple), 15歳- (very light purple), and 20歳以上 (black). The bars are ordered by total value, with H22 having the highest total (58.45) and R2 having the lowest (7.93).

Year	Total Value
H22	58.45
H23	44.67
H24	47.67
H25	45.48
H26	31.95
H27	17.61
H28	15.61
H29	12.45
H30	12.14
R1	17.30
R2	7.93

(カ) 手足口病

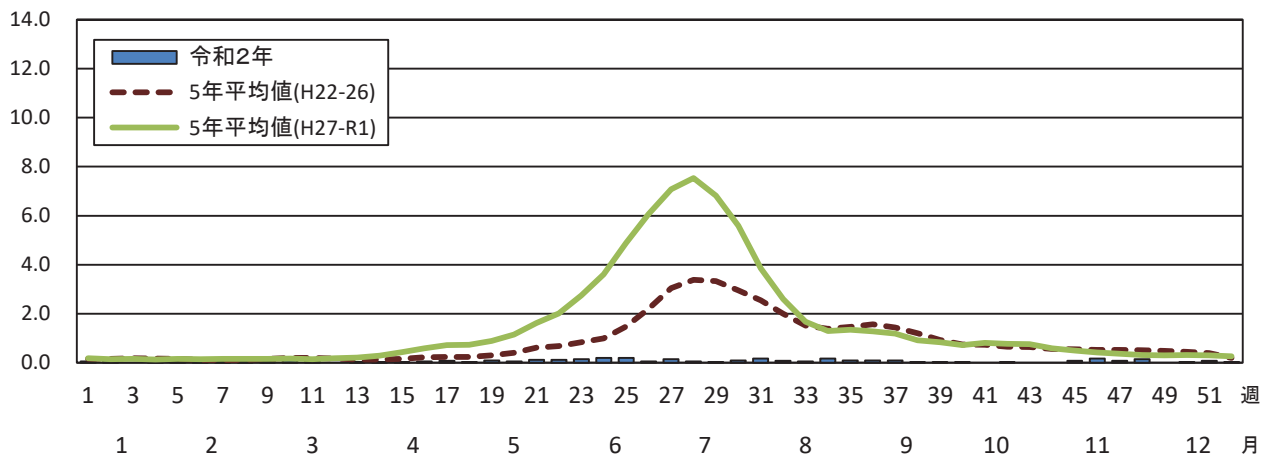
令和2年は年間報告数が145例、年間定点当たり報告数は3.37、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.04、前年比0.04であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数をみると、ほぼ隔年で増減を繰り返しており、過去10年間の年間定点当たり報告数では、最も少ない。

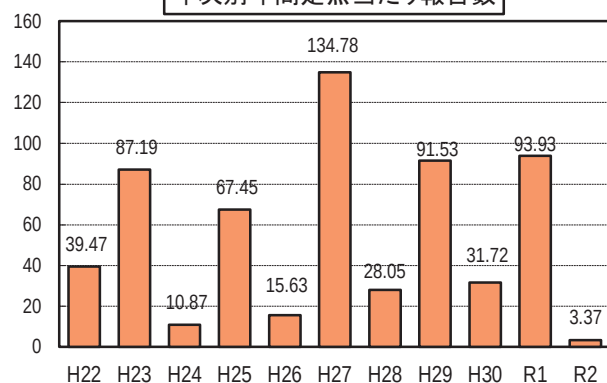
月別定点当たり報告数は、6月(0.70)、8月(0.47)の順に多かった。

年齢階級別では、1歳(44.8%)が最も多く、次いで2歳(13.1%)、3歳(11.0%)の順となり、3歳以下が全体の77.2%を占めた。

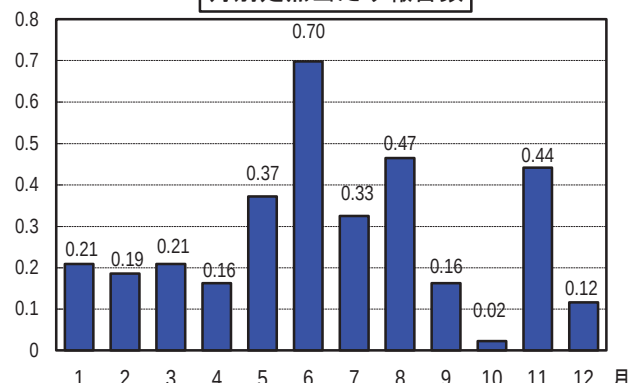
週別定点当たり報告数の推移



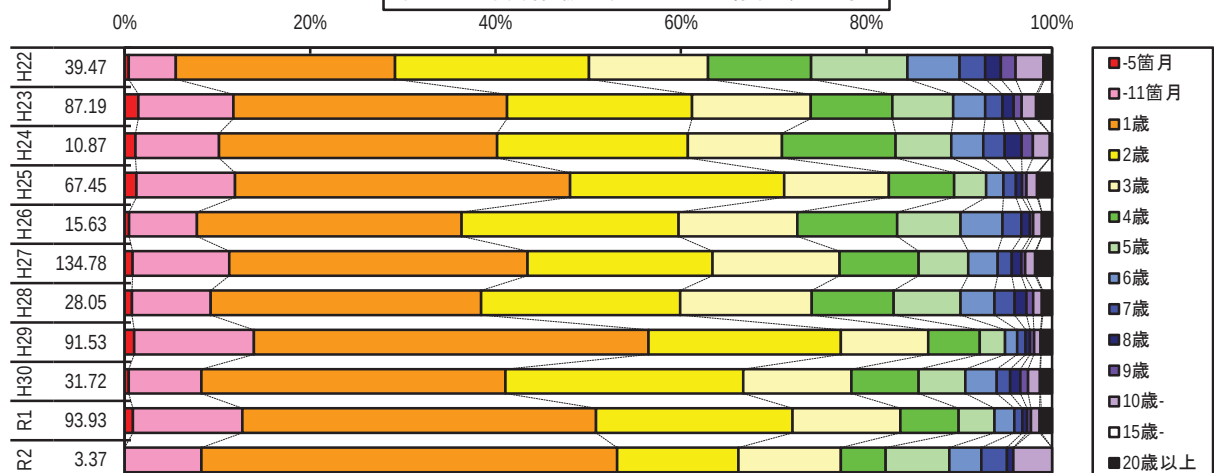
年次別年間定点当たり報告数

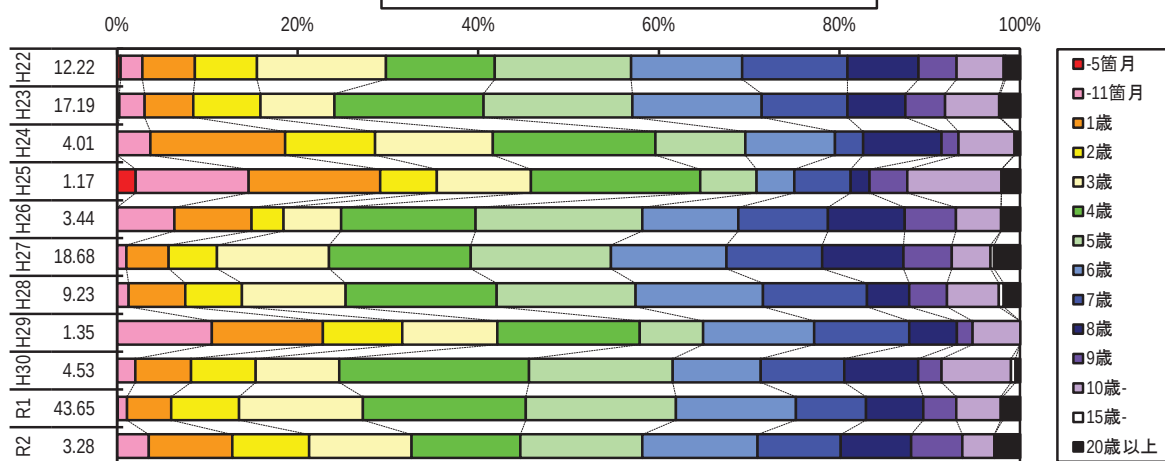


月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合





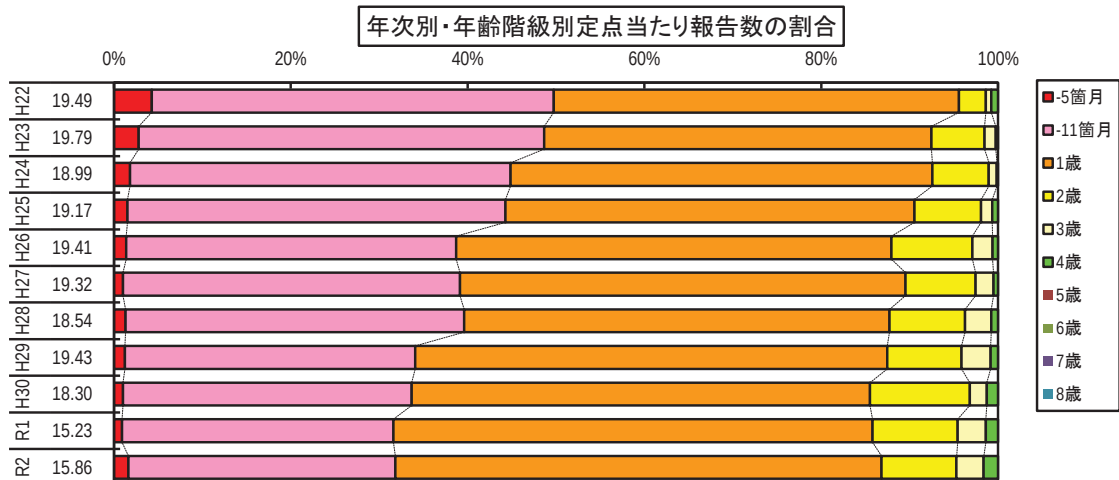
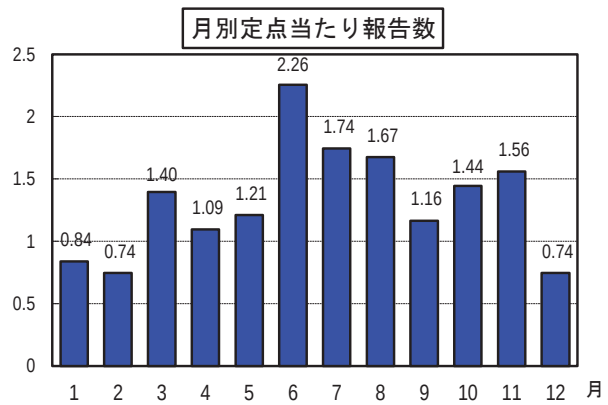
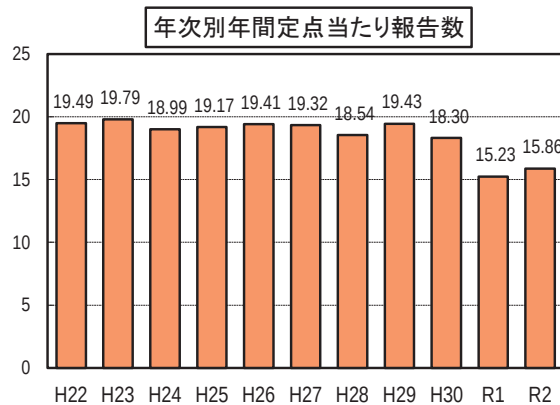
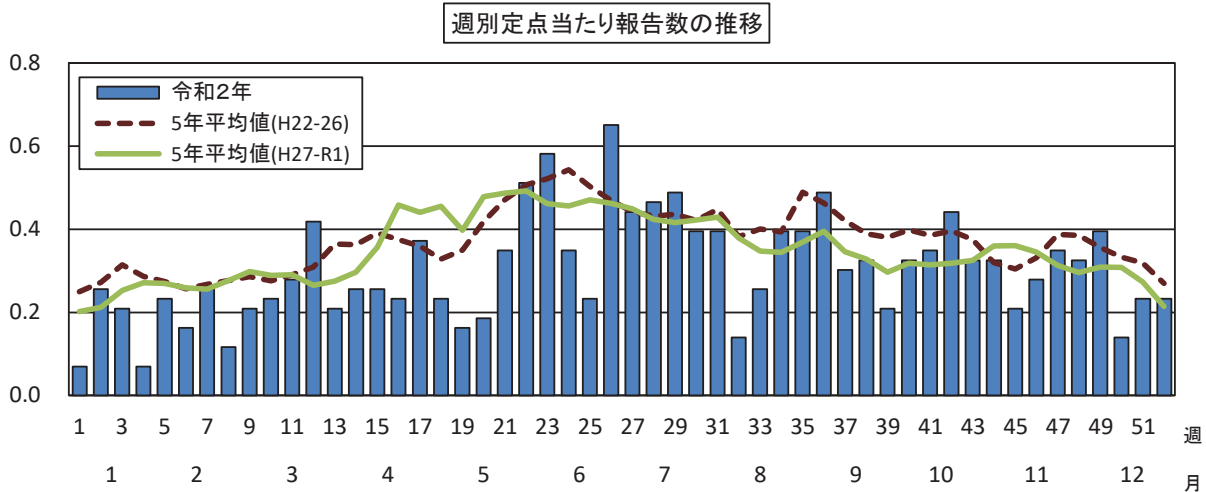
(ク) 突発性発しん

令和2年は年間報告数682例、年間定点当たり報告数15.86、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.87、前年比1.04であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は全ての年次でほとんど変化がないが、最も少なかった前年に次いで少なかった。

月別定点当たり報告数では、6月(2.26)が最も多く、次いで7月(1.74)、8月(1.67)の順に多かった。

年齢階級別では、1歳(55.0%)が半数以上を占め、次いで6箇月～11箇月(30.2%)が多く、1歳以下が全体の86.8%を占めた。



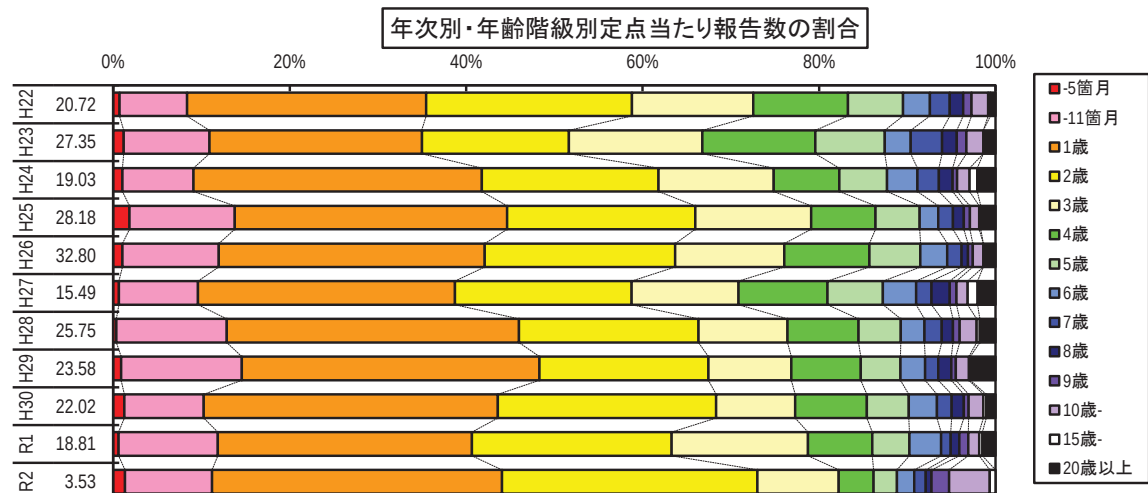
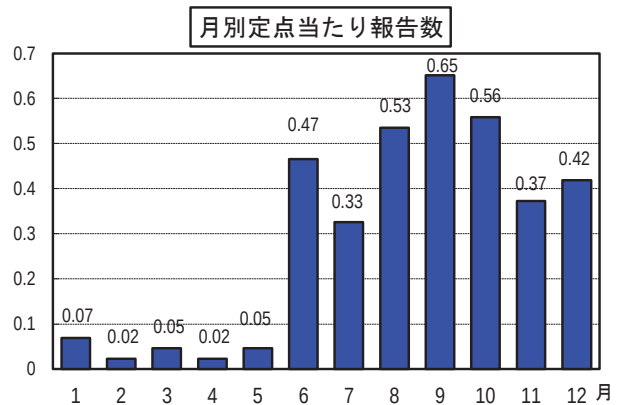
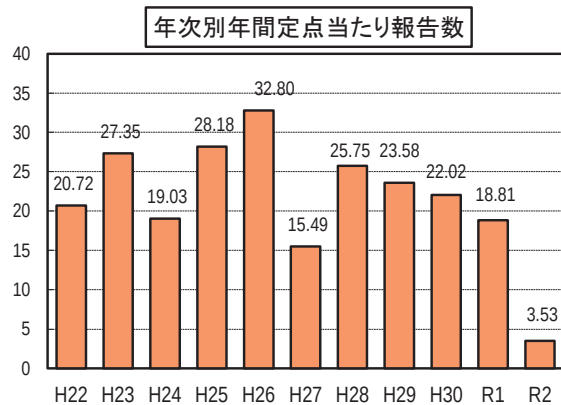
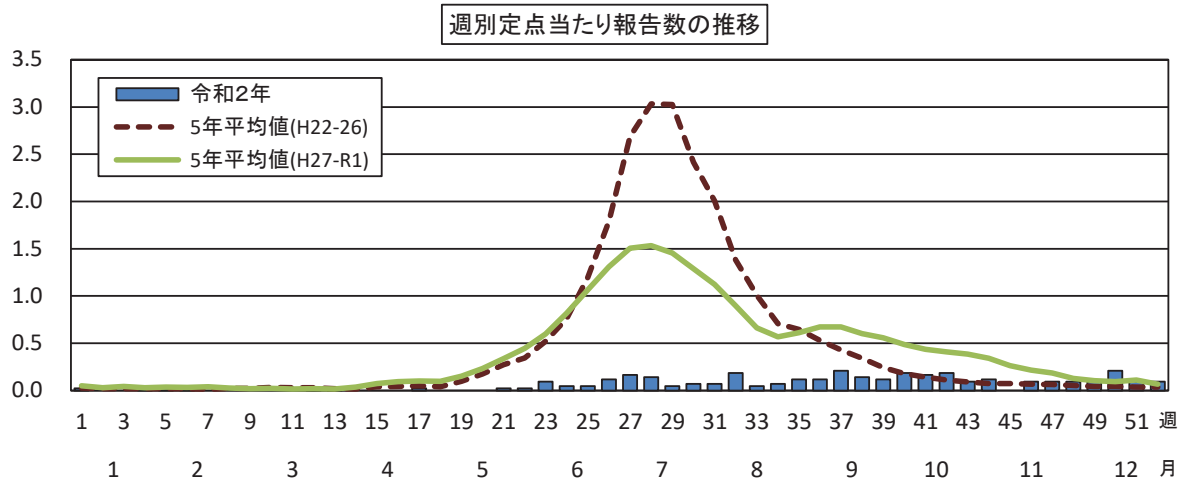
(ケ) ヘルパンギーナ

令和2年は年間報告数152例、年間定点当たり報告数3.53、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.17、前年比0.19であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数では、最も少ない。

月別定点当たり報告数では、9月(0.65)、10月(0.56)、8月(0.53)の順に多かった。

年齢階級別で比べると、1歳(32.9%)が最も多く、次いで2歳(28.9%)、6箇月～11箇月(9.9%)、3歳(9.2%)の順で、6箇月～3歳が全体の80.9%を占めた。



(コ) 流行性耳下腺炎

令和2年は年間報告数42例、年間定点当たり報告数0.98、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.07、前年比0.42であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は、平成29年から連続で減少し、最も少なかった。
月別定点当たり報告数では、6月(0.16)が最も多いが、年間を通してほぼ一定であった。
年齢階級別では、5歳(21.4%)、4歳(19.0%)、8歳(11.9%)の順に多かった。

